

『第13回 東日本大震災復興支援活動（南相馬）報告』

- 1 主催団体名 東京掃除に学ぶ会
(随行者 東京掃除に学ぶ会 波多野 勝彦)

- 2 活動目的と具体的内容、スケジュール
 - ① 活動目的 : 東日本大震災の被災地復旧・復興支援
参加者の心磨き
 - ② 具体的内容 : 瓦礫等の撤去、草刈り、清掃、ならびに被災者との交流
 - ③ スケジュール
 - 3月27日(金) 23:00 新宿西口集合受付開始(スバルビル前)
 - 23:15 出発、車中泊、途中2回休憩の予定
 - 28日(土) 6:00 南相馬市内到着、コンビニで朝食、
 - 7:30 南相馬市ボランティア活動センター着・準備
 - 8:30 受付
 - 9:00 現場着・活動開始
 - 14:30 活動終了・片付け作業等
 - 15:30 現場出発
 - 21:00 新宿駅 解散

- 3、支援活動場所 福島県南相馬市小高区(南相馬市は旧小高町、鹿島町、原町が合併)
は
旧「警戒区域」、24年4月に「避難指示解除準備区域」となり、昼間の
出入りが自由となりました。

3・11 から 4 年が経過しました。私達の生活は、すっかり日常を取り戻し、電力不足なども感じない生活をさせていただいています。その陰では、原発被害でいまだに日常を取り戻すことが出来ずに仮設住宅生活を余儀なくさせられている方々が大勢いらっしゃいます。

テレビや報道で知り得る情報もありますが、現地に行って見て体験してきたことはまた違う感触を参加者それぞれが感じた様子でした。

今回の活動は、大阪便教会、さいたま便教会、そして東京掃除に学ぶ会を中心として関西ブロック、関東ブロックが協力しての総勢 70 名の活動でした。

その活動は、

①旧ボランティアセンターから新ボランティアセンター移転に伴う掃除

②除染作業に伴う竹林の伐採作業

を行ってきました。

班分け、時間割、役割分担などが速やかに執り行われ、各自が周囲に目を配りながら活動していく様子は、日ごろの掃除実習の成果だと思いました。

お陰さまで、「お借りしたときよりも美しくしてお返しする」という鍵山相談役から学んできた目標も達成でき、また竹林伐採も与えられた範囲以上の整備することができ、ご依頼を頂いた南相馬市ボランティアセンター松本センター長様にも大変喜んでいただけました。

被災地の方々との交流は、まだ難しい状況ではありますが、南相馬の風景を取り戻せるようにこの支援活動を今後も続けていきたいと思えます。

参加していただいた方、ご支援を頂いた方々、本当にありがとうございました。

(随行者 東京掃除に学ぶ会 波多野 勝彦)



☆ 参加者 感想文 ☆

今回は大変お世話になり、ありがとうございました。

お陰様で、東日本大震災及び福島原発事故の二重の苦難にもかかわらず、復興に向け逞しく活動されている南相馬の方々、及び復興を支援されている数多くのボランティアの方々にお会いすることができ、勇気と力をいただきました。

また、当チームが新旧ボランティアセンターのトイレ掃除を急遽担当することとなりましたが、メンバーの方が手持ちのスクレパー及び旅館のマイナスイオンドライバーあるいはビール栓抜きを、臨機応変に活用し、こびりついていた垢をこそぎ落とし、ピカピカにすることができました。

除染のための木々の伐採・整理の際、東日本大震災時の大津波襲来・原子炉冷却電源喪失によるメルトダウンのため水素爆発が起こり、放射性物質が飛散した経緯を思い起こしました。

原子力発電には決してメルトダウンが起きない構造・仕組みが必須であると痛感致しました。

今後も、凡事徹底・積小為大の精神の下、ご協力致したいと思います。

(眞壁 征夫)

「支援活動から学んだこと」

今回私は支援活動から3つのことを学びました。

① 辛抱強く続けることの大切さ

午前中私は旧ボランティアセンターのトイレ掃除をさせていただきました。手順としてはまず、スポンジで全体的な汚れを落とす作業を行い、次にサンドペーパーで汚れを徹底的に落とす作業を行いました。サンドペーパーでは、一箇所を50回ひたすら擦ってはスポンジで拭くまた50回擦ってはスポンジで拭くという作業を繰り返していました。それでもなかなか汚れは落ちません。しかし、徐々にではありますが汚れが薄くなっていくのを手の感触で感じていました。なぜなら、汚れが付いている部分のベトベトしたりザラザラしていた感触がひたすら擦る作業を繰り返すことによりツルツルとした感触に変化していくことを感触として手で理解していたからです。そのツルツルとした感触を忘れずに擦る部分を徐々に移動させ最終的には便器全体がツルツルとした感触になりました。最初は正直辛かった擦る作業が変化に気づくことにより楽しくなって最終的には夢中になっていました。その結果綺麗な状態の便器になりました。

一つのことを辛抱強く続けることの大切さを学ばせていただきました。

② 大人数による力の大きさ

午後からは竹藪の伐採活動をさせていただきました。竹藪の伐採活動はとにかく範囲が広く竹藪を切っては運び出すといった重労働を伴うものでした。さらに竹だけでなく木の伐採も併せて行ったので大きな丸太を運んだりとさらに負荷が大きいものでした。しかし、大人数で「綺麗にしよう！」という共通の目的をもって活動したことによりスムーズに活動も進み多くの竹藪を伐採することができました。作業後に伐採した竹藪の山を見て、1人ではわずかな力だが、人が集まればこれほどの大きな力が出して成果として出せることを改めて教えていただきました。

③ 福島の復興はまだまだ進んでないこと

今回の支援活動も前回と同様にバスで海岸沿いにも連れて行って頂いたのですが、海岸沿いの住宅は前回と同様に今もまだ手付かずのものが多く存在していました。震災から4年が経過した現在でもこのような現状であることを肌で感じる事ができませんでした。また、福島では、いたるところに除染をおこなった後の土や葉の入った黒い布袋が置かれていました。先ほどの海岸沿いにはそれらの布袋を置くための仮置き場のために広大なスペースが作られていました。除染が進むにつれ除染による廃棄物の処分についての課題を現場で確認することができました。福島の問題はテレビ等では普段目にする機会は多くありますが、私は、実際の現場を見て自分の目と肌で感じる事がなによりも大切なことだと思います。私自身も今後も継続して福島への支援活動に参加して参ります。

この2日で私自身多くのことを学ばせていただきました。支援活動を毎回企画・運営されております諸関係者様に感謝しております。本当にありがとうございました。

(江崎 洋)

南相馬市にははじめてきました。
街の雰囲気を見て衝撃的な気持ちになりました。

見た目は新築なのに誰も住んでいない家や震災のままの状態が残っている建物を見て言葉にはできない気持ちになりました。

この状態を見て自分に何ができるのか、まだ思いつかなかったのですがこれから考えていきたいと思いました。

今回はいつもと違い道具が揃ってないトイレ掃除でした。

道具が、不十分で中々汚れがとれなかったのですが、途中見つけて渡してくださったドライバーを使う事で汚れがあつという間にとれました。

普段当たり前に使っていたドライバー本当にありがたく感じました。

普段当たり前のように使っていた道具とてもとても貴重な物だと感じとれました。

この掃除から日常生活で感じた事。

自分のまわりにある人、物、仕事、お金、環境などあるのが当たり前と思っ
て感謝が足りない自分があると感じました。

あるのが当たり前と思うのではなくありがたみを持ちたいと感じました。

あたりまえ ←→ありがとう

正反対な事だと思いました。

日常生活での環境で自分のまわりにある物や人など当たり前と思わずありが
たうの気持ちをもてれば自分自身の人間力を高めれる事ができ、まわりの人にも
良い影響が与える事ができるのかと感じました。

バスを出し深夜に運転していただいた大里綜合管理の野老さん、山本さん、
会をまとめてくださった波多野さんがいたおかげでこの会が成り立っているん
だと感じました。

自分も与えてもらってばかりいるのではなくて与える立場にならなければと感
じる事ができた二日間でした。

ありがとうございます。

(櫻井 雅人)

昨日はありがとうございました。4年ぶりに参加させていただき、まだまだ、
復興が進んでいない事に驚きました。また、原発の影響でまちに人が歩いてい
ない風景にも驚きました。誰かが、便利にするため、豊かにするためと、危険
な原発を受け入れた事が、こういった結果になった。しかし、全国から、たく

さんのボランティアの参加者が居て、結果は結果として、今出来る事をさせていただく事が大切だと改めて感じました。

阿部さんがおっしゃっていました。健康の秘訣は掃除だと！自分も日常の生活の中でもしっかりと、今、出来る事をさせていただく事を大切に致します。そして、波多野さん、塩貝の皆様、掃除の会の皆様、こういった機会を与えて頂いた事に感謝すると共に、心から尊敬します。

「今、出来る事を、今、出来る人が、今、出来る時にする」

ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

(岩佐 敏伸)

「第 13 回 東日本大震災復興支援活動」

昨年の 8 月に続き、5 度目となる福島県南相馬市を訪れました。

福島第一原発から 20 キロ圏内、4 年が経った今もなお、居住は許されず、当前のように進まないインフラ整備。

大げさではなく、人ひとりとすれ違うこともない、あの日から時が止まってしまったような町並み。

前回、訪れた昨年 8 月から正直何も変わっていませんでした……。

それでも、道路沿いの掲示板に示される「2.0~5.6 マイクロシーベルト」の放射線量の値を目の当たりにすると、

「まだなにも終わっていないんだな」とリアルに実感することができました。

東京、大阪、埼玉から総勢 70 名。

今回は震災から 4 年間、この地と向き合ってこられた「南相馬市ボランティア活動センター」が、3 月一杯で移設されるということで、

その空け渡しのお手伝いと除染をするための木々の伐採作業をさせていただきました。

震災直後から足を運ばせていただいておりますが、意外と気になる支援活動先でのトイレ事情。

仮設トイレはお世辞にも美しいとは言えず、未熟な私は、恥ずかしながら心では後退りすることもあります。

新しい VC のトイレも例に漏れず、今までに経験したことのない尿石のような結晶がビッシリ。

サンドペーパーでは歯が立たず、限られた道具の中、本当にキレイにできるのだろうかという疑念を抱きつつも、与えられた 2 時間、ひたすら大便器と向き合いました

「磨く」というよりは、「削り取る」という表現に近かったものの、ひたむきに向き合った結果、結晶はすっかり失くなりました。

そして、私の中にはまた一つ大きな経験値と自信が残りました。

4月からこの新しいVCを利用される方々が、気持ち良く活動に集中していただけるよう、少しばかりですが、そのお手伝いのできたような気がして、私にはとても有意義なことに思えました。

年数回しか伺えない立場で大変恐縮な話ですが、こういった節目の場に立ち会えたことが本当に素敵な時間でした。

不謹慎かもしれませんが、少なくとも私の目には、まだこの町に以前のような活気が戻るとは到底思えませんでした。VCの方々はそれを微塵も疑うことなく、4年間という月日を懸命に向き合ってこられた。そしてこれからも……。本当に本当に頭が下がります。

そんな想いを自分の中で風化させないように、毎年この時期にみなさんとこの地を訪問できることにすごく意味を感じます。

今回も素晴らしい志をお持ちのみなさんの中に、御一緒させていただけたこと、機会を与えていただいた「日本を美しくする会」の関係者のみなさまに心より感謝いたします。

(斎藤 大輔)

第13回復興地支援活動に参加して

2015年初めての東京掃除に学ぶ会復興地支援活動に、シオガイグループの社員9名と共に参加をさせていただきました。私自身は5回目の南相馬での活動でしたが、除染されたがれきや土壌が入った黒いトン袋がどんどん指定の置き場所に運ばれ、ソーラーパネルが増えている景観に異様な感覚がありました。常磐自動車道が全線開通になり少しずつ復興をしているような情報も錯覚なのかもと思えてしまいました。今回は社協会館をお借りしていたボランティアセンターが移設をするための引っ越しのお手伝いと、除染作業のための下準備となる竹林の伐採作業でした。私はボランティアセンターのお掃除に参加しました。お返しする会館を元の状態に戻すことがご依頼でした。4年間使用していたためボランティアセンターとしての臭いがある会館の内外を丁寧に感謝の気持ちを込めてお掃除をさせていただきました。トイレ・キッチン・和室・会議室・階段・玄関とそれぞれチーム編成でリーダーを中心に持ち場をきれいにさせていただきました。天井や壁の掲示物を剥がして、センターのために付けられた棚を外し、窓ガラスを磨き約3時間で見違えるようにきれいになりました。「取り壊すからそのままでいいですよ。」と言われましたが、だからこそ感謝の気持ちを

込めて綺麗にすることが大事だと鍵山相談役のお言葉を胸に作業をさせてもらいました。昼食後は、竹林の伐採作業をしていた班の皆さんと合流し 90 cm くらいの長さに木・枝・つるを切りそろえ数か所に設置した置き場に丁寧に積み上げていきました。チェーンソーや草刈り機・のこぎりや鎌を使いセンター担当チームが合流してからはスピードアップして、見えていなかった土が見えるようになりうっそうとしていた林も空気が流れ明るく感じました。一人の力は小さくても多くの力を合わせることで作業が効率よく大きなことも成し遂げられることを実感しました。帰路は、野老さんの計らい福島原発を見ることが出来る国道を通り、富岡町を抜けて常磐道へ。国道の両脇はゲートが閉められ立ち入り禁止厳戒地域な状況も復興を進めるための手段として 2 輪車・徒歩での通行が規制されていました。前回活動に参加した時とあまり変わらない状況はすでに 4 年が経過しているにも関わらず問題が多いことを物語っているのだと感じました。誰かのせいにするのではなく、今後のことを真剣に考え、被災された方々の思いに寄り添える活動をしていければという思いが改めてこみ上げてきました。いつもは一人での参加でしたが、今回は「チームシオガイ」のメンバーが一緒だったので心強くもあり、「チームシオガイ」のメンバーの凄さを目の当たりにして何だか誇らしく感じました。賑やかなメンバーと参加できたことも嬉しく思います。参加された方々のサポートが十分できなかった点は、皆様に支えていただけたおかげだと感謝しています。毎回運転して下さる大里管理の野老さん・山本さん、世話人の波多野さんのお蔭で無事に活動に参加できたこと感謝します。学びの多かった今回の経験を次回以降に活かしていきます。ありがとうございます。感謝。

(石井 比ろ美)

震災復興支援活動に参加して

昨年の 8 月 3 日以来の支援活動となります。

またこのような機会を与えてくださったことに、感謝いたします。

この日は南相馬市ボランティアセンターが移転するという節目の日であり、そのような日に立ち会うことができ非常に光栄に感じました。

午前中は、その引っ越し先である旅館のトイレ掃除をさせていただきました。私はまだ経験が浅く、苦勞した点はありましたが、皆さん満足な掃除道具も手配できない中、掃除に学ぶ会で得たテクニックでみるみるきれいになっていきました。

その後、小高区飯崎で竹藪刈りの作業となりました。ここは除染の対象区域

であり、そのため、作業の邪魔となる木や草を刈る必要があるとのことでした。

海に向かい黙祷をささげてからの作業開始となりました。

作業エリアには無人となった民家があり、震災前は立派な日本庭園であったと思われる場所がありました。雑草も生え、荒れていましたが、さすがにそこに植えられている木々を切り落とす気にはなれず、お宅周りの竹藪・枯れ木の伐採を行いました。

ほぼ半日、汗だくになりながら刈払機を振り回しながらも、やはりやるせない思いになってきます。周囲には除染の土を集めた大きな土嚢袋が何百個と並び、手のついていない場所もまだまだ多くあり、いつになったら普通の生活が送れるようになるのか、気が遠くなる思いがしました。

それにしても、できることを一つ一つ進めて行くしかありません。また機会を見つけて参加をしないと、強く感じました。

最後になりますが、波多野さん、石井さん、大里総合管理の野老さん、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

(大谷 尚史)

第 13 回東日本大震災支援活動に参加して

3/27、28 と東京掃除に学ぶ会の皆様と福島県南相馬市の震災ボランティア活動に参加させていただきました。

昨年 8 月も南相馬市のボランティア活動に参加させていただき、土手の草刈りをいたしました。その時から状況は変わっているのかなと思い、行きましたが、実際は全く変わっていませんでした。

朝、6 時には南相馬市のコンビニで朝ごはんを済ませ、ボランティアセンターへ行く前に南相馬市の状況をバスで回って見せてくれました。バスの中からでしたが、見える建物は震災の起きた時とほとんど変わらず放置されているといった状況です。それが私には衝撃でした。今まで、震災ボランティア活動を 12 回ほど宮城県石巻、雄勝でさせていただきました。瓦礫や震災に遭った家があるまま放置されているのは震災があった 1 年ほどでその後はほぼ片付いております。

福島もそうなっていると思っていましたが、昨年夏に行った時も放置のまま。

そして今回も目に入ってくるのは、震災時のそのまま。

24年4月には避難指示解除準備区域となったもののやはり放射能の関係で他に移り住んだ人が戻ってきてないのです。人の気配が全くしないのです。そして堤防にはより高い堰が作られるようあちらこちらにテトラポットが積み上げられていました。

市内の状況を見た後、南相馬市のボランティアセンターに到着。そして本日の活動任務拝命。私達グループは、新しく移るボランティアセンター2Fのトイレ掃除を担当いたしました。

この新しいボランティアセンターは旅館として利用されていたところであり、工事現場の方々の宿舎となっており、激しく汚れていました。

今回は、掃除道具がいつものように準備されていた訳ではなく、急遽買い集めたもので対応しました。なかなか思うように汚れが取れませんが、ここは「日本を美しくする会」のベテランさんが集まるといろいろな知恵がでます。台所へ行って栓抜きを取ってきてスクレイパーの代わりにすることを試してみたりとアイデア満載です。

あの手この手でトイレ掃除をしました。汚れがしっかりととれなくちよっぴり悔いが残りましたが、参加者全員で話をしながら掃除をしてこれも震災活動の思い出となりました。

昼食は、鍵山相談役がご準備いただいたお弁当を美味しく食べ、更に午後からの活動に気合が入りました。いつも気にかけていただける鍵山相談役に感謝です。ありがとうございます。

午後からは、竹林の伐採。竹を切って、枝を切り落としていく作業です。通常はチェーンソーで切り倒していくのですが、これも数があまりないため、ある道具で参加者が頭を使いながら人海戦術で作業していきました。午後3時まで活動、そしてボランティアセンターに道具を返却して終了となりました。帰りは南双葉町から、常磐道のICまで一般道を通り、新宿駅に向かいます。

バス車内から見えるのは、田んぼに汚染土が積み上げられ、家は震災時のままの姿。建機会社の駐車場には建機が置きっぱなし。そしてどこを見ても人の

気配はせず、至る所にバリケードが張ってあって立ち入り不可の看板の数々。

今ではこの景色のことは新聞では取り上げられなくなっていますが、これが現実なのです。この現実を自分の目で見ることは非常に勉強になりました。復興まではまだまだ遠い。

この東北震災復興活動で自分にできる事は限られています。しかし今回のように多くの方が全国から集まって復興支援活動をしている。若い方も多い。高校生も参加しています。心強いです。

今回の活動でもそんな姿を見せていただき勉強になりました。これからも「出来る人が、出来る時に、できる事をやる」これを信条にこれからも微力ではありますが、活動させていただきたいと思えます。

最後になりましたが、今回、東日本大震災復興支援活動をご準備いただきました日本を美しくする会の皆様、東京掃除に学ぶ会の波多野様、そして活動時のお弁当をご用意いただきました鍵山相談役、多くの皆様に感謝申し上げます。今後もこのような活動がありましたら是非、参加させていただきます。

ありがとうございました。

(阿部 浩介)

「第 13 回東日本大震災復興支援活動に参加して」

今回、南東日本大震災復興支援活動として、南相馬市のボランティア清掃に参加させていただきました。

昨年、ボランティアではありませんが、宮城県の女川町を訪問し、その力強い復興状況を目にしましたが、南相馬市では、歩いている人を見かけることもほとんどなく、建物はあるけど、ゴースタウンのような印象を受けました。

南相馬市では、ボランティアセンターの清掃と竹林の草木の伐採作業をさせていただきました。初めての経験で、周りの先輩方の作業を見よう

見まねで行いましたが、とても新鮮で勉強になりました。

午前中、初めて1つの便器を何時間も何時間も磨き上げる作業をしましたが、汚れが落ちるにしたがって、自分の心の汚れも落ちていっているような気がしました。ピカピカになった便器を見てとてもスッキリしました。

6名で一人一便器を何時間も同じ空間で磨き続けました。その空間を共有したことで、勝手に仲間意識が芽生え、お昼にはすっかり打ち解けることができました。

完全に誰ひとり知らない状況で参加して、不安もありましたが、やはりこういう作業にボランティアで参加している人は、とても人徳のある素晴らしい人たちばかりで、知り合えて本当によかったと思いました。

午後からは竹林に行って、竹や草を伐採し、一箇所に集める作業をしました。体を使う作業で結構疲れましたが、とてもやりがいがあり、大勢で一所懸命に作業して、帰る時間になって周りを見渡したとき、こんなにも作業できたのか、と驚きました。

これもみんなで力を合わせた結果ですが、このたくさんの人達をリードするリーダーたちの統率力、判断力もすごいなあ、と感心いたしました。

掃除からたくさんのごことを学び、これからも機会を作って参加させていただきたいと思いました。

本当にありがとうございました。今後共どうぞよろしくお願いいたします。

(K.N.)

今回も昨年に引き続き、参加させていただきました。今回は常磐道が前線開通したということで移動時間は短くなりました。福島第一原発に近づくと常磐道沿いにある放射線量を示す数値は2.0マイクロシーベルトという高い数値を表示していました。

住民のみなさまが帰宅するのは遠い先だろうなと思いました。

トイレ掃除や林の下草駆りを行っても住民の方々を外で見ることはありませんでした。いつか、この地域の人たちが通常の生活に戻ることを

ができたなら共に掃除などを通じて交流したいなあと思います。
日々、不平不満を述べてしまいますが、日常に感謝をする今回の掃除に学ぶ会でした。
いつもの主催者、関係者、大里総合管理のみなさまにお礼いたします。
ありがとうございました。

(山川 茂宏)

平成27年3月28日南相馬市小高区復興支援活動

今回で被災地の訪問は4回目になります。南相馬市は初めてでした。現地では何か出来ればとの思いは震災の日から絶えずありましたが、個人ではなかなかそこまで行動に移せないのが現状のところ、今回こうして掃除の会により再び訪れることができたことをありがたく思っています。

私の脳裏に残る被災地に対する印象は、2011年の4月に初めて岩手県の山田町を訪れ、そこから釜石まで南下し、延々と続く瓦礫の山を見たときの感覚です。今回もそれに通ずるものがありました。南相馬市小高区。バスの窓から見えるのは、そこかしこに置かれている除染で取り除いた土壌を入れた黒い袋。人の住んでいない住宅、人のいない商店街。4年前のままの、津波で壊れた家。100台はあろうかという小高駅前の駐輪場の自転車。置き去りにされたままのものが延々と続いていました。これら全てを綺麗にし、新しく何かを作らなければならないことを考えると、あまりにも途方もないと言えませんが。

さて、今回は新ボランティアセンターのトイレ掃除をしました。まず、ここでは道具がないのが痛恨でした。小便器でもかなり石化がすすんでおり、サンドメッシュかマイナスドライバーがあればかなり取り除けたはずですが、結局そのままにしてトイレ掃除は終了となりました。残念でした。次に午後からは除染予定地に移動し、その林の下草や低木を伐採する作業に従事しました。除染作業の下準備といったところです。こちらはかなりの重労働でした。伐採するのは楽ですが、それを集め、土の上を見通し良く綺麗にするのが一苦勞。すべて手作業です。結局やっているうちに土の上に体積していた葉や枝はもろんのこと、道をふさいでいた倒木も全て切断し取り除きました。これはほとんど除染作業のようなものだよなと思いつつ作業をしていました。半除染です。放射性物質が一番体積している部分を取り除いてしまったわけですから。こんな作業をボランティアがやってしまっているのだろうかという疑念を抱きつつ

も、予定時刻がきて作業は終了。バスに乗り込み帰京となりました。

午前4時ころには南相馬に着いていたのが、トイレ掃除と半除染をし、夜9時には再び新宿へ。たった15、6時間前のことを思うと信じられませんでした。長く、充実した、そして不思議な一日でした。

やはり現地に行き自分の目で見て、手足を動かして体験してくると、全然違います。震災から4年が経ち、すでにあの災害のことも、今なお非難生活を送っている人々がいることも、徐々に記憶から薄れ、風化しています。しかし忘れるということは一方において人間の重要な機能で、ある意味自然なことです。忘れることを忘れてしまったら、悲しみから抜け出せません。風化を批判するよりも、当然のこととして受け止め、思いのある人は是非行動するべきです。今回も貴重な体験でした。ありがとうございました。

(高橋 直規)

ご縁深い南相馬市のボランティア活動を振りかえり

南相馬市には「原町掃除に学ぶ会」のお仲間もありご縁があります。震災の翌月4月10日に今回と同様大里総合管理のマイクロバスにお世話になり、原町の避難所の小学校へ炊き出しとトイレ掃除に伺ったのがご縁の始まりでした。

この機会に南相馬の活動状況と回数を調べたところ、何と今回が11回目です。我ながらビックリ、まだまだ続く今後の参考のため、村田先生のご報告を参考に簡単にまとめてみました。

2回目は翌年9月29日、参加者45名(高校生26、教員11、一般8)八潮高校村田先生にお誘いをいただき、八潮高校中心の活動に参加。原発20キロ圏危険解除区域の小高地区にあるボランティアセンターにて、厚いハートの持ち主の松本センター長との初めての出会いでした。その日の活動は、江戸時代から続く8代目当主の農家の庭一帯とビニールハウスの除草活動でした。

3回目は12月22日、参加者34名(学生22、教員6、一般)寒さも厳しく雨の中、広いお家の庭の草刈でしたが、埼玉掃除に学ぶ会の建設会社さんが、トラックで重機をお持込みいただき除草作業で大活躍でした。

4回目は25年12月21日、参加者44名(男子34、女子10、内学生25、教員

13、一般 6)

途中の飯館村では前夜の大雪で路面は雪で覆われていました。作業は一軒家の敷地に生い茂った竹の伐採と除去、鬱蒼とした竹林の先に家があることすらわからないほど。20m以上の竹も多くあり、チェーンソー・刈払機を駆使、厄介な危険を伴う作業でしたが、事故なく無事終了しほっとしました。

5回目は26年3月21日、参加者32名(学生19、教員7、一般6)

全部で9棟のビニールハウスの解体作業、ハウス内は雑草が生い茂り、中が全く見えないほど、動物の骨もあり。センター長から「1棟できればいい」のご託宣通り、ハウスの解体は手強く全員の協力により1棟を完璧に解体終了しました。

6回目は6月13日、参加者46名(大阪26、東京20)

水戸街道沿いの『ごはんや』(食堂)と宝石店などの商店が並ぶ、従来とは全く異なり瓦礫の撤去が中心の体力が勝負の作業、かつトン袋詰めのごみの分別が不十分のため、いくつか詰め直したり、大変手間取りました。

7回目は6月28日、参加者43名(八潮高校生33名、教師4名、PTA4名、一般2名)

奇しくも同一作業現場で、センター長と打ち合わせの上廃棄トン袋の完全分別を徹底し、近々回収予定の市職員が運びやすいように整理整頓に心がけ予定どおり作業終了。

8回目は8月3日、参加者48名(大阪33名、東京15名)

海岸に近い堰堤の葦刈と草刈りでした。距離は2キロ近くあり、日陰なしの炎天下の作業であり、果たして時間内に終了できるか心配でした。依頼主様によれば、今は一面更地となっているところにあった集落は津波で流され、多くの仲間が亡くなられたので、堰堤サイドをきれいにしてお盆を迎えたい、というのが作業依頼の狙いでした。

昼食は炎天下のため原町掃除に学ぶ会の木幡代表の作業所をお借りできたこと、小学生のお子様2人と親子でご参加いただいたこと、炎天下と堰堤斜面のしかも堅い葦刈でしたが無事完了、依頼主様もお見えになりお礼の言葉と記念撮影後、達成感の喜びの美酒を味わいつつ帰途につきました。

9回目は1週間後の8月10日、参加者57名(大阪産業大学野球部40名、東京17名)

今回は、大阪産大宮崎監督から「石巻へ遠征試合に出かけます、その前にV活動を」との有難いお言葉によりご一緒させていただきましたが、又もや雨男のM先生のご参加により、台風余波の大雨の草刈でした。また南相馬市から「特別通行許可書」をいただきながらも、原発のクレーンが霞んで見える高速道路通過のため往復4か所の検問所で、身分証明書の厳重チェックという初体験もありました。作業場所は耳谷という山間にある広い立派な温室のある農場（フラワーセンター）と周辺の草取りでした

10回目は8月23日 参加者12名（男性11、女性1）
前回に続き同じ場所でした。今回は偶々依頼主様が仮住まいの春日部からお戻りになっておられ、お会いできました。特に依頼主様から直接のご要請もあり、農場近くのご自宅周辺の草刈が中心でした。少人数の活動でしたが依頼主様と身近に親しくお話しができ、大変有意義な活動でした。

11回目 27年3月28日 参加者(男子26、女子11名、内学生9、教員18、一般10)
本年最初の活動は、大変意義な活動となりました。それは大阪からレンタカーで10+1名もご参加いただいたこと。更に相馬市から借用のセンター事務所の借用期限が3月末のため、近くの旅館に移転。その事務所の後片付けとトイレ、台所、事務所内の清掃、更に加えて移転先の事務所（小松屋旅館）が、震災後手つかずに放置されたため、特にトイレの汚れが酷くビックリ。しかしこれ等は我が会の最も得意とするところ、日ごろ鍛えた腕を存分に発揮、センター長ご夫妻が大感動。また更には広い宅地の竹、草が伸び放題の除草作業も除染作業がしやすいように完璧に終了したため、また又センター長が感動、日本を美しくする会に対する信頼は厚くなるばかり。参加皆様のご活躍に感謝感謝。そして毎度毎度昼食お弁当を差し入れていただく鍵山相談役様のお気遣いにも感謝感謝でございます。

誠に身勝手なことを並べてしまいましたが、南相馬市は除染作業の準備のため、まだ未だ支援のご要請は続くと思われれます。更に今回の作業を通じて道具の不足、特に木材切断用のチェーンソーが全く不足しており、早急に補充する必要があります。当会としても支援を検討すべく協議に及びますのでよろしく願いいたします。1昨年夏に向かって宿泊者用のシャワールームを寄贈し、大変感謝されておりますので併せて報告申し上げます。有難うございました。

（日本を美しくする会 本部事務局 阿部 豊）